令和５年度　江戸川区立小松川小学校　学校関係者評価　最終評価報告書

学校教育目標	○心豊かな　思いやりのある子 ○よく考え　進んでやりとおす子 ○健康な　明るい子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○「わかる」「できる」喜びを味わい、確かな学力を身に付けられる学校。 ○自他ともに大切にする知・徳・体のバランスのとれた児童。 ○一人一人がやりがいを感じ、情熱をもって教育活動を実践できる教師。
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞ 「教科担任制」による取組が定着し、質の高い授業の提供や教員間での協働が円滑に行われるようになってきている。 ＜課題＞ 自己肯定感や自己有用感については、さらに高めることができる。「わかった」「できた」「たのしい」と感じられる経験などの成功体験を積み重ねられるようにしていく必要がある。		

教育委員会重点課題	＜取組項目＞　・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		年度末に向けた改善策
				取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
学力の向上	＜学力の向上＞ ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・学力向上アクションプランを作成し、具体的な数値目標と手立てを決める。 ・一単位時間の中でめあてを明確にし、振り返ることのできる授業を確立する。 ・一部教科担任制を実施し、専門性を生かした授業を展開する。 ・一人一台のタブレット端末を有効活用し、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を図る。	・全国学力調査、都学力向上のための調査で「授業の内容はよく分りますか」の肯定的回答90%以上。 ・全国学力調査の国語・算数の都平均以上。 ・年に3回の授業観察で授業改善に向けた課題を具体的に把握し改善を目指す。 ・タブレット端末を活用し深い学びとするとともに、ミライシードで個に応じた習熟を深める。	A	B	●「授業の内容がよく分かりますか」の肯定的な回答は国語89.3%、算数87.5%であった。 ●全国学力調査では、東京都平均に対し、国語＋1%、算数－4%であった。 ○授業観察において各自の授業改善の課題を把握し改善に取り組んでいる。 ○タブレット端末を活用し、ミライシードに取り組んでいる。	A	・学校は工夫して授業を展開しようと努力している。 ・引き続き児童の学力向上に努めてほしい。	・各教員一人一人の授業改善の課題を明確にする。授業スタンダードに基づき授業力向上を図る。 ・児童一人一人の課題克服へのプロセスを導き、タブレット端末等を活用した個別最適な学びを推進する。 ・次年度の全国学力調査で国語・算数ともに東京都平均を超えるよう知識・技能を活用できる取組を充実させる。
	＜読書科の更なる充実＞ ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・読書科年間指導計画や学校図書館全体計画に基づいて、他教科との関連を図り探究的な学習を推進していく。 ・週4回の昼読書や月2回の読み聞かせ、年3回の読書月間を活用し読書活動を充実させていく。	・年間計画に基づいて、読書科と他教科の連携を図る。 ・年間35回以上の学校図書館を利用した読書科の時間を実施する。 ・読書月間では担任等を入れ替えて読み聞かせをする。 ・地域図書館から月1回の団体貸し出しを活用する。 ・年3回以上、探究的な学習の成果を発表する。	B	B	○年間計画に沿って読書科と他教科の連携を図っている。 ○6月、10月に担任を入れ替えて読み聞かせを実施できた。 ○地域図書館から月1回の団体図書を借り活用できた。 ●探究的な学習の成果を全学年発表することができていない。	B	・本が好きで、本を読むこと、本に興味をもつことを大切にしてほしい。 ・読書科を通して本を読み、活用する力を育成してほしい。	・読書科の年間指導計画を見直し、他教科との関連を図り、探究的な学習を推進する。 ・学習の成果を発表、鑑賞する機会を設ける。
体力の向上	＜運動意欲や基礎体力の向上＞ ・運動意欲の向上に向けた取組の実施・充実	・できる喜びを感じることができる授業づくりの推進。 ・休み時間の外遊びの推奨。 ・東京都体力・運動能力調査を分析し指導に生かす。 ・食育・健康教育の充実。	・都、区での授業を参観した教員に伝達研修を実施させ、全教員で情報共有する。 ・12月から1月にかけて全校で持久走に取り組み体力を高める。 ・都体力・運動能力調査の結果をすべての学年、種目で全国平均以上を目指す。 ・栄養士や養護教諭を中心に食育、健康に関する教育を充実させる。	B	B	○他区での授業参観後、自校で伝達研修を行い、情報共有することができた。 ●体力・運動能力調査では、2つの学年で全国平均を下回った。特に持久力に課題が見られた。 ○栄養士から給食委員会の児童を通して、食に関する知識を広く伝えることができた。	B	・体力調査の結果が概ね良くて安心した。 ・課題である持久力の育成に今後も取り組んでほしい。	・体力・運動能力調査の結果を十分に検証し、傾向と課題を明確にする。 ・持久力を身に付けるために全校マラソン週間を設ける。
共生社会の実現に向けた教育の推進	＜特別支援教育の推進＞ ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、共同学習の実施・充実	・ユニバーサルデザインを意識した教室環境づくり。 ・エンカレッジルームの効果的な活用。 ・副籍交流の推進。	・教室内外の掲示物、板書等ユニバーサルデザインを意識した教室環境を整える。 ・エンカレッジルームの使用方法について検討し、必要な児童が必要な環境において気持ちをコントロールできるように整備する。 ・月に1回、学校だより等を交換したり、読み聞かせや学級活動など可能な範囲で交流したりする。	A	B	○ユニバーサルデザインを意識した教室環境を整えている。 ●エンカレッジルームの使用基準を定め、毎時間教職員が見守っているが、個別最適な学びの推進が課題である。 ○学校だより等で副籍交流している。	B	・教室環境が整っていて安心したが、一部の教室では煩雑に見えたので改善をお願いしたい。 ・エンカレッジルームの使用の約束を徹底し、毎時間、教職員を配置し安心な場所を提供することができた。	・ユニバーサルデザインを意識した教室環境を全校で整備する。 ・エンカレッジルームで過ごす児童の最適化を図り、環境を充実させる。
子どもたちの健全育成	＜子どもたちの健全育成に向けた取組＞ ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hypaer-QUの活用	・不登校・いじめに対し、未然防止に尽くすが、早期発見、早期対応を組織的に行う。 ・ふれあい月間や学校生活アンケートを実施し、児童の実態をつかむ。 ・hypaer-QUを実施し、学級内の満足度を的確に捉える。	・不登校・いじめについて週に1回の生活指導夕会で情報共有する。 ・年3回のふれあい月間や学校生活アンケートで児童の変化や悩みなどを早期にとらえ、対応する。 ・hypear-QUで学校生活不満足群をゼロにする。	A	B	○不登校・いじめの情報については、毎日確認し、週に1回、全教職員で共有している。 ○ふれあい月間、学校生活アンケートを中心に児童の変化を早期にとらえている。 ●hypaer-QUの調査では学級生活不満足群が平均して1，2名存在している。	A	・不登校、いじめの問題に対して丁寧に対応していると思う。 ・引き続きアンテナを高くして、児童を見守ってほしい。	・未然防止、早期発見、早期解決に向けた校内体制を確立させる。 ・学級生活不満足群がゼロになるよう、温かい学校づくりを組織的に構築できるように共有していく。
地域に広く開かれた学校（園）の実現	＜自校（園）の取組の積極的な発信＞ ・学校（園）ホームページの充実等 ・学校（園）公開の実施・充実	・学校ホームページに児童の様子を掲載し、保護者や地域に学校の様子を分かりやすく周知する。 ・年4回の学校公開では、事前の周知を徹底し、より多くの保護者、学校評議員に実際の学校、児童の様子を見ていただく機会を充実させる。	・週に1回以上、ホームページ上に学校の様子を更新する。 ・年4回の学校公開と参観に関するアンケートを実施する。	A	B	○週に1回以上のホームページ更新を実施し、学校生活の様子を発信している。 ○学校公開、学校行事等でアンケートを実施し、学校だより等でフィードバックすることができた。	A	・情報を積極的に発信してくれて子供たちの様子が分かる。 ・感染症対策等を踏まえた上で、学校公開、授業参観の機会を増やしてほしい。	・週に1回以上ホームページを更新し、学校・児童の様子を分かりやすく保護者、地域に発信する。 ・公開授業、学校行事等において、アンケートに真摯に耳を傾け、課題を明確にし改善を図る。
	＜学校関係者評価の充実＞ ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・保護者アンケート、学校関係者評価の実施により、課題を明確にし改善を図る。	・学校だより、ホームページ等で学校の様子を随時お知らせする。 ・学校評議員には年3回、学校参観の機会を設ける。	A	A	○学校だより、学年だよりや児童の学校生活について、ホームページで公開している。 ○学校評議員に授業公開と学校経営について説明し、意見をいただく機会を設けた。	A	・学校だより等で学校の様子が伺える。 ・学校評議員として授業を見させてもらった。子供たちも先生方もよく頑張っていた。	・学校関係者との連携を密にし情報公開と課題の解決、改善に向けた取組を共有する。
特色ある教育の展開	・教科担任制を実施し、専門性を生かした授業を展開する。	・一部教科担任制を実施し、専門性を生かした授業を展開させる。	・外国語、社会、理科等で教科担任制を実施し、学習指導の質を上げる。	A	A	○教科担任制を実施し、専門性のある授業と全教員で児童を指導する体制が整った。	A	・教科担任制による授業は、中学校、高校につながり効果があると思う。	・異学年に渡って教科担任制を広げ、その効果を検証する。
	・自己肯定感を高めるための指導方法を校内研究として検討し、実践する。	・教育活動全般において、児童の自己肯定感を高める工夫を校内研究会で実践を踏まえて協議する。	・月1回の校内研究会で講師を招き、自己肯定感を高めるための指導方法について実践例をもとに検討し、課題解決を図る。	A	B	○児童の自己肯定感を高める指導方法を実践、検証している。	A	・自己肯定感を高めることは簡単ではないだろうが、丁寧に工夫して指導を継続してもらいたい。	・各取組を共有し、児童の発達段階・実態に応じて、学校全体で実践する。